

全科協ニュース

URL <http://jcs.m.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成17年9月1日発行 (通巻第204号)

特集：地域子ども教室推進事業について

近年、子どもたちの安全・安心な遊び場の不足、スポーツに親しむ機会の減少、多様な文化体験活動に触れる機会の減少等が指摘されています。文部科学省では平成16年度からの3年間、地域に根ざした多様な活動の機会を提供するため、安全・安心して活動できる子どもの居場所（活動拠点）づくりの支援を行うこととし、放課後や休日に小中学生を対象に体験活動や交流活動を行う「地域子ども教室推進事業」を実施しています。

国立科学博物館においてもこの事業に参加を表明し、全

科協の協力を得て全国の科学系博物館等に対し、この「地域子ども教室推進事業」の募集ととりまとめを行いました。その結果、平成16年度は全科協加盟館35館を含め全国47館の協力を頂き、事業を行いました。また、平成17年度は全科協加盟館47館を含め65館の協力を得て事業を行っております。

今回は、国立科学博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、福岡県青少年科学館の3館の平成16年度の活動の様子をご紹介します。

国立科学博物館における「地域子ども教室」について

(1) 上野地区における「かはく子ども教室」

上野地区における平成16年度の「地域子ども教室」は、名称を「かはく子ども教室」とし、毎月第3、第4土曜日の午後1時30分から午後4時まで実施しました。内容は主に、科学工作や実験・観察など、子どもたちが実際に手を動かし頭を働かせ、自ら何かを作る、発見する喜びが得られるようなプログラムで構成しました。

本教室では、当館の教育ボランティア、大学院生及び現職の教員（日本化学会化学教育協議会の協力）が指導にあたり、当館での博物館実習経験をもつ大学生をスタッフとしました。また、日本化学会の先生が連れてきてくださった中学校科学部の生徒たちも運営をサポートしてくれました。このように様々な立場、年齢層の方々と子どもたちとのふれあいの場として機能したことで、本教室が子どもたちの成長の一助になったのではないかと思います。

また、11月20日の第1回目にはスタート記念として、「小・中学生のための新館ミュージアム・ラリー」を行い、約300名の参加者で賑わいました。このミュージアム・ラリーは非常に好評だったため、新年にも3回開催しました。

当館には、「身近な科学」、「発見の森」に代表されるハンズオン展示や、開館日には毎日子供向けの実験や観察などを行っている「探究コーナー」があります。さらに、小中

回	開催日		企 画
1	2004年11月20日	(土)	小・中学生のための新館ミュージアム・ラリー
2	2004年11月27日	(土)	ドライアイスの実験、いろいろな砂、二重リングをつくろう 他
3	2004年12月18日	(土)	古生代の化石フズリナを観察しよう
4	2004年12月25日	(土)	博物館で点字を学ぼう
5	2005年1月2日	(日)	新春サイエンススクエア・ミュージアム・ラリー①
6	2005年1月3日	(月)	新春サイエンススクエア・ミュージアム・ラリー②
7	2005年1月4日	(火)	新春サイエンススクエア・ミュージアム・ラリー③
8	2005年1月15日	(土)	虹の見える箱を作って光をさぐる
9	2005年1月22日	(土)	タイマー式「浮沈子」をつくろう 他
10	2005年2月19日	(土)	身近なもので染めよう！
11	2005年2月26日	(土)	目に見えない光－赤外線をみつけよう－ 他
12	2005年3月19日	(土)	江戸麦わら細工
13	2005年3月26日	(土)	踊るセロハン、酵素のはたらきを調べよう

表 平成16年度活動プログラム一覧



タイマー式浮沈子を作ろう（平成17年1月22日実施）



小・中学生のための新館ミュージアム・ラリー

高校生が無料入館できる土曜日には教育ボランティアによる実験教室が開かれており、いつでも科博は安心・安全な「子どもの居場所」と言えます。

こうしたことを考えたとき、ミュージアム・ラリーはランドオープンした科博の魅力を子どもたち自身に発見してもらい、何度でも訪れてもらうきっかけを与えるという意味で、非常に有効であったと思います。

「かはく子ども教室」では上記のような活動を平成16年度中に全13回行い、参加者は延べ2,740名を数えました。

平成16年度の活動では、本館改修中ということもあって十分な広さの会場を確保することができず、希望する参加者全員に対応できない状況が生じたり、上野の地域性を生かした伝統文化、伝統工芸などに触れる機会をあまり提供できなかったということが課題として残りました。

当館は平成17年4月より入館料金を改定し、常設展示については小中高校生は年間を通じて無料入館となりました。これによって「子どもの居場所」としての科博の機能

がより高まると思われます。平成17年度の活動では、このようなことを踏まえ、「かはく子ども教室」の運営改善や地域との連携をさらに深めながら活動していきたいと考えています。（学習課 菅 圭之介）

(2) 筑波実験植物園での活動

筑波実験植物園では、子ども向けの教育普及活動の他に、地域の小学校との連携をはかる事業として植物園を活用した学校教育の実践も行っています。「かはく子ども教室」においては、さらに子どもの活動の可能性を広げるために、子どもたちが多面的に取り組めるように、異なった切り口で活動支援を実施することにしました。子どもに接触する機会が多い筑波大学のサークルと共同で子どものために活動を実施しました。その他に植物園が従来から行っているウォークラリーも行いましたが、ここでは、筑波大学のサークルと共同で行った活動を紹介します。

①植物ウォークラリー「めざせ名探偵」

筑波大学ねっしー・自然教育研究会と共同で実施しました。内容としては、特徴のある植物をあらかじめ写真で取っておき、図面上にその位置をプロットし、探します。また、解答がひとひねりしており、解答の植物名の一部を取り出して、かくされた文章を探し出します。テキストの作成にあたっては、図面を見る能力、課題の植物を他と識別できる能力など総合的にいろいろなものを処理する能力を育むよう工夫しました。

②植物園で野鳥をみよう

筑波大学野生動物研究会と共同で実施しました。同研究会は植物園がオープンした頃からずっと、植物園にやってくる鳥の調査を行っています。内容としては、まず、子どもたちに「聞きなし」で鳥の鳴き声をいくつか覚えさせ、野外でその鳴き声の確認と姿を双眼鏡で観察します。鳥は、林の下ばえの中、樹冠にいるのかなどの観察です。テキストについては、鳥の大きさをスズメなどと比較して認識させ、個々の識別する部位を示すなど工夫し、単独でも使用出来るようにしました。

このほか、従来から行っているものとして、植物ウォークラリー「マツボックリとドングリのなる木を探そう」（高学年向き）と、植物園ふしぎ探検「木の肌を見わけよう」（低・中学年向き）を実施しました。

参加した子どもたちは、「めざせ名探偵」では、園内をくまなくまわり、分かったという歓声とともに、教育棟に走

りこんで最後の文字合わせ。「きみは名探偵だ!」という文字が出せて、筑波大生に誉めてもらおうと、にっこりしていたのが印象に残りました。野鳥の観察では、非常に寒い日で、音を立てずに鳥をじっと探すのは忍耐がいました。カモなどの大きい鳥から観察し始めたが、なかなか双眼鏡が使えません。カモにピントがあったときの感激は、声を出さずににっこりしていました。

(筑波実験植物園 平山 良治)

(3) 自然教育園における「子ども土曜観察会」

自然教育園における平成16年度の「地域子ども教室」は、名称を「子ども土曜観察会」とし、平成16年9月から翌年3月までの毎週土曜日の午前11時から約1時間自然教育園で実施しました。活動内容としては、自然の材料を使用しているの簡単な工作、園内で生育している多くの草木の植物や昆虫・鳥などの自然観察、身近な材料を使用しているの簡単な実験など子どもたちが自然と親しむことができるプログラムで構成しました。この「子ども土曜観察会」は、当園の野外生態実習の経験者や大学院生の協力を得て実施しました。

自然の材料を使用しているの簡単な工作をする活動としては「オギのふくろう作り」、「たねの模型作り」、「クリスマスツリー作り」などを16回実施しました。園内の植物や昆虫・鳥などの自然を観察する活動としては「木の顔をさがそう」、「早春の虫さがし」、「鳥の見わけ方」などを10回実施しました。簡単な実験としてはブロッコリーの「DNAを見よう」を実施しました。これらの活動を通して、子どもたちに自然と親しむことを体験してもらうことができ、これによって自然への理解が深まり、また、子ども同士のふれあ



オギのふくろう作り



木の顔をさがそう

いの場ともなり、良い経験が得られたのではないかと考えています。上記のとおり、平成16年度の「子ども土曜観察会」は27回実施し、延べ373名の参加者がありました。

(自然教育園 矢野 亮)

びわとと調査隊—滋賀県立琵琶湖博物館における「地域子ども教室」について—

滋賀県立琵琶湖博物館 中島 経夫

琵琶湖博物館には、はしかけ制度というものがある。始めて聞く言葉だと思うが、この制度は、博物館を活用して市民の方々に自主的な活動をしていただくための制度である。はしかけとは、滋賀県の湖北地方の方言で、仲人さんの前段階の役割をする人を指す。ボランティア活動という言葉には、博物館の仕事を無償で手伝ってもらうというイ

メージがある。そこで、琵琶湖博物館では、ボランティアという言葉をあえて使わずこの言葉を借用した。はしかけ活動とは、はしかけさんによる自己実現のための自主的かつ主体的な活動である。

はしかけ活動をするためには、琵琶湖博物館が実施するはしかけ登録講座を受講していただき、はしかけさんとし

て博物館に登録しておく必要がある。現在、およそ300名の方が登録し、10を超えるグループが活発に活動している。そのなかで、子どもの居場所を創出するグループである「琵琶湖博物館うおの会」と「びわたん」が、地域子ども教室推進事業を実施する「琵琶湖博物館子ども体験教室実行員会」を構成している。

「びわたん」は、博物館が大好きで、博物館の楽しみ方や琵琶湖地域の自然と文化のすばらしさを人々に伝えたいという志をもった方々の集まりである。主な活動は、琵琶湖博物館の交流事業の一つである「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業の実施である。この事業は、毎月第2・4土曜日に、来館者対象として体験学習の実習を行っている。はしかけさんは、この事業に企画立案から関わり、当日の運営も中心になって行っている。はしかけさんが企画したプログラムとして、「レイスティックを作ろう」「縄文コースターを作ろう」「プランクトンを観察しようーペットボトルで顕微鏡」などがある。また、はしかけさんの興味関心に応じて、地域の公民館や学校、博物館に出かけて体験学習や教員研修を行ったりしている。

もうひとつのグループである琵琶湖博物館うおの会、略して「うおの会」は、魚つかみの大好きな方々の集まりである。「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚の生息環境を将来に残そう。魚とその生息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう。」というスローガンを掲げ、滋賀県内の魚の分布調査を開始した。「楽しみ」を楽しみに終わらせずに、活動の結果を科学的なデータとし、琵琶湖や琵琶湖地域の水環境、魚の保全や復活にかかろうと活動してきた。4年間で当初の目的である滋賀県内の魚の分布調査が終了した。その成果を琵琶湖博物館研究報告23号「みんなで楽しんだうおの会」にまとめている。調査の参加者は151名、採集地点は2,703地点、採集魚された魚は20科49属72種、博物館に登録された標本は10,917点になった。この研究調査報告書は、はしかけさんが中心になってまとめられ、参加者が何を考えて活動し、何を明らかにしたかが書かれている。4年間の活動を通じて、タモロコとヌマムツの区別もつかなかった人たちが、好きこそもの上手で、タモ網での魚の採集の仕方、投網のうち方、魚の同定など、その能力をめきめき上達させ、専門の研究者以上になってしまった。その能力をいかし、昨年「びわたん調査隊」の活動を展開している。びわたん調査隊の活動は、地域博物

館の活動として、きわめて目覚しいものである。その活動について紹介する。

琵琶湖博物館には、「湖と人間をテーマとする博物館」、「フィールドへの誘いとなる博物館」、「交流の場となる博物館」という3つの基本理念がある。2つ目の「フィールドへの誘いとなる博物館」について説明する。琵琶湖博物館では、身近な環境や一人ひとりの暮らしを大切にしている。その意味で、「湖と人間のかかわり」にかかわる資料、つまり、研究すべき資料、博物館に展示すべき資料、博物館に収蔵すべき資料は、滋賀県どこにでもある。フィールドこそ本当の博物館、琵琶湖博物館という施設は、本当の博物館への入り口であるという考えである。この理念にしたがい子ども達の居場所をフィールドに創出しようと考えた。身近な環境である家の前の水路や小川は、現代では、ただの水の流れる水路であり、子ども達には危険な場所となっている。ゴミが捨てられ、汚いドブというイメージにもなっている。一昔前まで、これらの小川や水路は「みぞっこ」と呼ばれ、子ども達にとって魚つかみなどの遊びの場であった。さらに小川の水は台所に引き込まれカバタとなっていた。そこには生活のための水が流れており、さらに、小川や水路ではオカズトりの漁撈も行われていた。当時の人々にとって、この水を汚すことはけっしてできなかったはずである。身近な水環境が、人々に必要なものになれば、「ドブ」ではなくなる。多くの人々に身近な水環境をあらためてみつめてもらい、そこにもたくさん生き物や魚たちがすんでいることに気づいてもらおうというのが「びわたん調査隊」の活動である。

この活動では、多くの人々に魚つかみの楽しさを味わってもらうことが最も大切なことである。しかし、びわたん調査隊はこれだけではない。個人の娯楽や遊びである魚つかみや釣り、各種団体や学校、企業、機関が行う観察会から得られるデータを1つにまとめあげるためのネットワーク活動（琵琶湖お魚ネットワーク）でもある。データをまとめるために、データを規格化しなければならない。「魚つかみの楽しみかたー調査のしかた・魚のみわけかた」というガイドブック（図1、図2）をつくり、それに添える調査カードを作成した（図3）。これを武器に、うおの会の会員たちは、琵琶湖流域あちこちへ出かけていった。「うちの団体が観察会をやるが、指導員を派遣して」、「総合学習で、魚の調査をやるので、うおの会の方にきてもらえないか」



図1 調査ガイドブック「魚つかみの楽しみかた 調査のしかた・魚のみわけかた (初級編)」

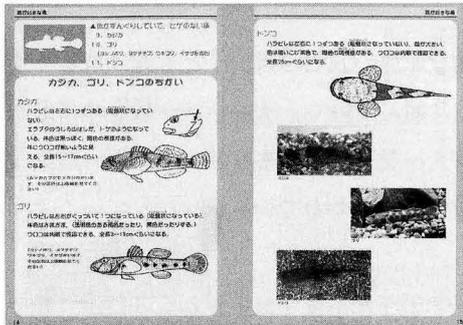


図2 調査ガイドブック初級編の中の魚の見分け方を示した頁

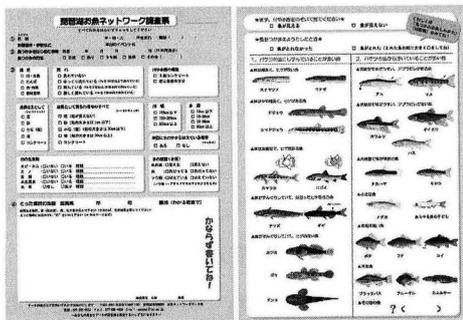


図3 調査カード (初級編) の裏と表

「社員の環境学習で琵琶湖を取りあげるので、うちの工場へきてもらいたい」このような要望にこたえ、支援してきた観察会は7月末で、50件を超え、参加人数は5,000名を超えた。子どもの参加者はおよそ1,000名になっている(図4)。

うおの会から指導員を派遣する条件として、びわとと調査隊の調査に協力していただくことになっている。観察会では、上手な魚つかみの方法、魚の同定の仕方を指導することのほかに、調査カードの記入の仕方を指導する(図5、6)。観察会の時だけでなく、ふだん調査をしてくださいとお願いしている。現在までに集まった有効調査カードは、2,000枚を超えている。「いつ、どこで、どんな環境で、どんな魚がとれたか」「いつ、どこの、こんな環境には魚がない」これらのデータをGIS上で分析していく。市民参加による環境保全の活動はたくさんあるが、それを大規模に実施し、科学的なデータにしていくという試みはいままでになかった。調査地点はいつものところ観察会を実施した地域にかたよっているが、しだいに琵琶湖流域にゆっくりと広がっていくと思う。

びわとと調査隊の活動は、地域子ども教室推進事業とし

て実施しているが、WWFジャパンからの委託事業としても行っている。WWF・ブリヂストン琵琶湖生命の水プロジェクトという形で、民間企業からの支援を受けている。このプロジェクトは、WWFインターナショナルが指定しているGlobal 200のなかの1つである琵琶湖流域で、市民参加による環境保全活動を行うものである。市民によるモニタリングによって琵琶湖流域のお魚マップを作り上げようというものである。10万ヶ所の調査をめざし、うおの会では、びわとと調査隊の活動をくりひろげている。

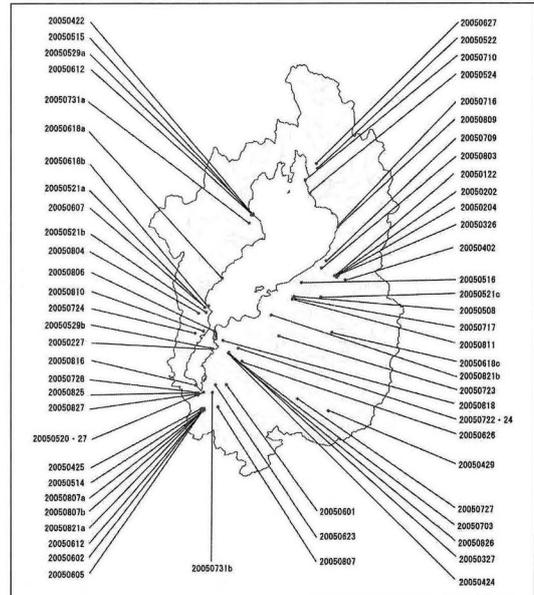


図4 うおの会が支援してきた観察会(8月末までの予定を含む)



図5 魚つかみを楽しむ



図6 観察会での調査カードの記入

科学体験！子ども広場—福岡県青少年科学館における「地域子ども教室」について—

福岡県青少年科学館 薄 伸也

福岡県青少年科学館では、館の特性を生かして子どもの居場所を科学の分野で作ることができないかと考え、「科学体験！子ども広場」というネーミングで大きく3つの事業を行ってきた。

考え方として、受け身的なものではなく「体験・学び・遊び」の要素を取り入れた。また、子ども自身が楽しめる・友達と楽しめる・家族と楽しめるものであることを意識した。

さらに科学館だけで終わるのではなく、家に帰ってからも作った物を利用したり、学んだことを家族に伝えたりと家族の交流のきっかけや家での居場所として発展できることを願い、企画・実施した。

①チャレンジ教室

当館は毎週土曜日、高校生以下は入館料が無料となる。そこで午前と午後に1時間程度「チャレンジ教室」という工作教室を行っている。

今回の取り組みでは、15分～30分程度で行える簡易な工作教室で2週間を目安にメニューを変更し16年度は9月～3月までに18種類の工作を行った。

以下はそのメニューである。

「プラ板キーホルダー」・「ストロークライダー」・「CDホバークラフト」・「紙トンボ」・「クルクル変身カード」・「紙ブーメラン」・「のぼり人形」・「松ぼっくりツリー」・「水のみ鳥」・「CDゴマ」・「電気くらげ」・「虹め

がね」・「スライム」・「円筒飛行機」・「バランストンボ」・「風船ロケット」・「コップコースター」・「ホログラム万華鏡」

作り方や科学的な原理の説明の後、子ども達は楽しそうにもものづくりに取り組んでいく。チャレンジ教室の名前が示すように、カッターなど日常あまり使っていない道具なども使い方を指導し、自分の力でチャレンジしていくように声をかけている。

幼児や小学校低学年など小さなお子さんも多いが、親やボランティアがサポートしながら作り方のコツを教えたり、危ないか見守ったりしている。また、年齢が高い子には原理について説明したり、更に工夫するとよい点などを話したりしている。

毎回50名～100名程度の参加があり、自分で作った作品を大事そうに眺めながら持って帰る姿が印象的である。

人的配置や安全面などから難しい面もあるが、実施時間や実施日の拡大などにより多くの子どもたちの居場所として遊び・学べるように今後も検討していきたい。

②コスモスクール

当館はプラネタリウムを併設しており、天文分野の事業として天文や科学に対する興味・関心を高め、天文の基礎知識や観察方法を学んでもらう教室を月に1回程度、土曜日の15:30から1時間程度行っている。

天体観望会など夜の観察会は別途開催しているが、子どもの居場所として子どもだけでも参加でき、プラネタリウムとは違った体験型の教室となっている。

内容は、季節の星座の学習に重点を置き、星座早見盤の使用方法や紙上での星座探しなどを行う。さらに、話題の天文現象を取り上げて紹介したり、神話の紹介や星座早見盤などの製作といった工作教室も行っている。

実際この教室で知識として学んだことをプラネタリウムの星空で探してみたり、家に帰って実際の空を見ながら家族と星を探したとという参加者からの声も多く聞かれ、人気の教室である。



③企画展

昔から子どもの居場所といえば、遊びの場であり学びの場である。それは、どんな所でどんな事をしていたのかにスポットを当て、現代の遊びやおもちゃの原点ともいえる「昭和30年から50年代頃の遊びとおもちゃ」をテーマにした企画展を開催した。

名称 「路地裏のあそび・おもちゃの科学展」

期間 平成16年12月11日(土)～平成17年1月10日(月)

構成としては「展示」と「体験・イベント」の二つで構成した。

「展示」では年代ごと・テーマごとに民芸おもちゃ、ブリキのおもちゃ、ゲーム、カードなどなつかしのおもちゃを展示し、会場の雰囲気も当時の生活背景がわかるように四畳半・三輪自動車・ジュークボックス・絵看板・映画ポスターなどで演出を行った。

連日多くの家族連れでにぎわい、親やおじいちゃん・おばあちゃんがなつかしがりながら、子ども達に当時のおもちゃやあそびの話をしながら見て回る光景がとてもほほえましかった。

「体験・イベント」としては、「昭和の遊び体験コーナー」でコマ・メンコ・フラフープ・けん玉などを使っていつでも遊べるようにした。

ここでも3世代で遊び方を教えたり、競い合ったりと一日中にぎわった遊び場となった。

大道芸・紙芝居・猿回し・皿まわしなど体験も交えたショーや「あそびの修行」と銘打った竹細工・お手玉・あやとり・折り紙教室など週末を中心に期間中15日30回を超えるイベントを行った。



イベントはどれも好評で毎回100人を超える方が楽しんでいました。皿まわしやジャグリング(大道芸)などの体験型のイベントは1時間以上も熱中して取り組む姿も多く見られました。

科学館にできる居場所作りとして、毎週(チャレンジ教室)、毎月(コスモスクール)、イベント(企画展)といった3種の事業を考え実施していった。どの事業も居場所作りと家族交流のきっかけという当初の目的は達成できていたのではないかと考えている。

実施している中で印象的であったのは、やはり子どもの笑顔と熱心に取り組む目。それを見守る家族の温かい視線であった。

今回の事業を通して、講師・スタッフ・ボランティアという人的配置が十分にできた事は内容の充実と子ども達の安全確保の点で非常に有効であり今後も継続実施していきたいと考えている。

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

 株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)

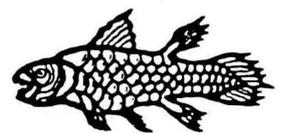
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡

URL <http://www.tanseisha.co.jp>

美術

はく製

〈各種生物〉
剝製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所
会社

製作所 〒272-0816 ☎047-337-5678
千葉県市川市本北方2-18-1 FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

E-mail: toyobken@taupe.plala.or.jp

スウェーデンにニシンの博物館が開館

北海道余市のよいち水産博物館は別名「ニシン博物館」と呼ばれており、この前まで北海道が世界に誇る唯一のニシンの専門博物館だった。それが最近そうではなくなったのである。

このほど2005年6月4日にもニシンの博物館がスケップスマーレンという町に開館した。よいち水産博物館が北海道におけるニシン漁について紹介しているに対し、スウェーデンに開館したものは、スウェーデンが世界に誇る発酵ニシン「シュールストレミング」をテーマにしているところに大きな特色がある。ご存じの読者はこの名前を聞いてあの独特の臭さを思い浮かべるに違いないが、とにかくその臭さは優にクサヤの臭さに勝るものだ。同館ではバルト海で獲れたニシンを使ったこの発酵食品の製造の歴史や料理が紹介されている。またレストランこそはないものの、館内で試食も可能だ。建設にあたって、EUから137万ドルが助成された。日本ではその缶詰は東京あたりで入手できるが、シュールストレミングは、茹でた新ジャガと食べる旨いし、またアクアビットともあう。(ヴォトカとはあわない)

Surstroemming Museum

■企画展・特別展

中国

香港医学博物館

Sars 100 Days Overcome in Unity

2005年6月18日－9月30日

<http://www.hkmms.org.hk/English/main.htm>

香港科学博物館

Sars 100 Days Overcome in Unity

2005年10月4日－11月30日

<http://hk.science.museum/newgallery/sars100/eng/exhibition.html>

The Robot Zoo

2005年6月24日－10月25日

http://hk.science.museum/temp-exh/robot_zoo/eng/index.html

国立科学技術博物館 (台湾)

Explore the 90% Unknown-- Samuel C. C. Ting and

the Particle

2005年4月30日－10月20日

カナダ

オンタリオ科学館

Gunther von Hagens' BODY WORLDS 2

2005年9月30日－2006年2月26日

<http://www.ontariosciencecentre.ca/>

カナダ自然博物館

Ice Age Mammals 2005年7月1日－2006年3月26日

http://www.nature.ca/exhibits/iamamm_e.cfm

カナダ農業博物館

Tractors 2005年3月1日－10月31日

<http://www.agriculture.technomuses.ca/>

One Hundred Years of Science in Agriculture

2005年3月1日－10月31日

<http://www.agriculture.technomuses.ca/>

モントリオール科学館

X-Treme Rotation 2005年4月－2006年3月31日

http://www.montrealsciencecentre.com/en/activites/activites_rotation.htm

フィンランド

ヘウレカ

Music 2005年3月19日－2006年3月5日

Mirrors in Mind 2005年9月24日－2006年9月3日

<http://www.heureka.fi/>

オーストラリア

クエストコン科学館

Toys : Science at Play

2005年8月1日－2006年1月31日

<http://www.questacon.edu.au>

イギリス

生命科学館

Mars Quest : discover the mysteries of the Red Planet 2005年6月18日－12月15日

<http://www.lifesciencecentre.org.uk/cfor1/mars-quest.php>

ブラッドフォード国立写真・映像・テレビ博物館

Fashionation, between art and fashion

2005年6月10日－9月18日

<http://www.nmpft.org.uk/>

アメリカ

アリゾナ科学館

The Body, a Sesame Street Production

2005年5月14日－11月27日

<http://www.azscience.org/>

エクスプロラトリウム

The Nobel Prize : 100 Years of Creativity

2005年7月14日－10月2日

<http://www.exploratorium.edu/nobel/index.html>

サンタバーバラ自然史博物館

A Celebration of Souls : Day of the Dead in Southern Mexico

2005年11月13日まで

<http://www.sbnature.org/exhibits/cos/>

サンディエゴ自然史博物館

Backyard Monsters

2005年5月28日－2006年1月1日

<http://www.sdnhm.org/exhibits/bym/index.html>

Earth, Wind & Wildfire

2004年10月16日－2006年1月1日

<http://www.sdnhm.org/exhibits/fire/index.html>

タートルベイ探検の公園

FIRE : A Force of Nature

2005年7月9日－12月8日

Frogs : A Chorus of Colors

2005年5月28日－10月30日

<http://www.turtlebay.org/exhibitions/exhibitions.shtml>

ディスカバリー博物館

Motorcycle Mania

2005年6月11日－8月28日

<http://www.amod.org/exhibits.html>

ハンチントン植物園

"The Newtonian Moment :

Science and the Making of Modern Culture"

2005年7月23日－11月27日

<http://www.huntington.org/>

ベイエリア・ディスカバリー博物館

Think Tank

2005年5月－9月

Growing Up with the Berenstain Bears

2005年9月－2006年1月

Pack Your Bags

2006年2月－5月

Monkey King - A Journey to China :

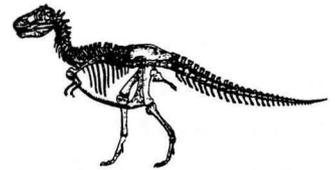
2006年6月－9月

http://www.baykidsmuseum.org/programs/special_exhibits.html

* (やすい・りょう)

E-post : ZAKvaran@aurora.ocn.ne.jp

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**

コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802

TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT
ONY KOBO CO.,LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3シグマ神保町4階
TEL (03) 3221-1102代 FAX (03) 3221-1185



動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム

メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー
投射を可能にした小型・高精細のデジタル
プラネタリウム。さらにドーム全天に高画質な
CG映像を投射するマルチ投射機能を持ち、
さまざまなシーンで活躍します。

▶ 各種イベント等にも対応。レンタルもご相談ください。



コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル12階

TEL (03) 3349-5301

大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階

TEL (06) 6110-0570

東海事業所 〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8

TEL (0533) 89-3570

URL : <http://konicaminolta.jp/planetarium/>

9月10月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
岩手県立博物館	企画展「縄文北緯40°～前・中期の北東北～」	10月9日～11月27日
陸前高田市立博物館	夏の特別展「蝶のくらし展」	7月23日～9月11日
仙台市科学館	小企画展「世界物理年2005」展	7月16日～10月16日
秋田県立博物館	企画展「石・火山・ひと－秋田の大地とくらし－」	9月17日～11月27日
ふくしま森の科学体験センター	特別展「第5回サイエンスアイデアコンテスト受賞作品展示」	5月14日～9月25日
郡山市ふれあい科学館	「アインシュタイン特別企画」	9月1日～10月30日
産業総合技術研究所 地質標本館	特別展「地質図の世界一人の暮らしと自然を結ぶ」	7月23日～9月25日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第34回企画展「46億年のタイムカプセル－南極大陸から未来が見える－」	7月16日～9月25日
栃木県立博物館	企画展「とちぎの歴史街道－みちの世界へ－」	7月23日～9月11日
	企画展「祈りのすがた－下野の仏画－」	10月1日～11月13日
	テーマ展「土のひみつ」	7月16日～3月31日
群馬県立自然史博物館	企画展「ニッポンヴンダーカマー 荒俣弘の驚異宝物館」	10月1日～11月27日
川口市立科学館	巡回展「ナノの冒険」	4月3日～9月11日
狭山市立博物館	企画展「大妖怪展」	7月9日～9月11日
	企画展「童絵のふるさと－池原昭治作品展－」(仮称)	10月8日～12月18日
埼玉県立自然史博物館	企画展「君も自然の研究者」	7月9日～9月25日
	特別展「石の用と美」	10月8日～12月4日
東金子ども科学館	巡回展「ナノの冒険」	4月3日～10月30日
逓信総合博物館	2005NHK学園オープンスクール作品展	9月3日～9月25日
	「～秘蔵・青梅きもの博物館所蔵 梨本宮妃殿下コレクション～日仏絵はがきの語る100年前」展	10月1日～10月30日
国立科学博物館	特別展「パール展－その輝きのすべて－」	10月8日～1月22日
たばこと塩の博物館	企画展「とんこつたばこ入れ～固い素材の柔らかい造形～」	9月10日～11月6日
三菱みなとみらい技術館	特別展示「見つめよう！わたしたちの地球～自然から学ぶ新しい環境技術～」	3月15日～9月25日
馬の博物館	秋季特別展「Made in Japan－日本美術の馬－」	10月1日～11月27日
横浜子ども科学館	企画展「理科だいすき！」	9月17日～11月6日
横須賀市自然・人文博物館	特別展示「三浦半島にすむ昆虫からのメッセージ－身近な自然 今昔－」	8月25日～11月25日
神奈川県立生命の星・地球博物館	特別展「化石どうぶつ園－北アメリカ漸新世の哺乳類－」	7月16日～11月6日
富山市科学文化センター	特別展「琉球列島の自然」	7月15日～9月11日
	企画展示「ふしぎいっぱい自然と科学」	9月23日～10月16日
立山カルデラ砂防博物館	森下恭写真展「水圏－とやまを支える水の循環－」	9月3日～10月2日
富山県 立山博物館	企画展「ちょっと昔の学校登山－写真でたどる大正・昭和の立山登山－」(仮題)	10月1日～11月6日
黒部市吉田科学館	特別展「黒部少年少女発明くふう展」	9月15日～10月4日
	特別展「黒部市小中学校児童生徒科学展覧会」	9月15日～10月4日
福井県立恐竜博物館	開館5周年記念展「大空に羽ばたいた恐竜たち展」	7月15日～11月3日
福井市自然史博物館	第60回特別展「越前おろしそばの自然史」	8月6日～11月20日
飯田市美術博物館	特別陳列「市岡家と万博の父 田中芳男」	9月9日～10月10日
	特別展「中世信濃の名僧－その営みと造形」	10月15日～11月23日
岐阜県博物館	秋季特別展「名水・温泉・名勝」展	9月17日～11月13日
中津川市鉱物博物館	第9回企画展「ようこそ！ガラスの国へ－ガラスの話－」	7月31日～11月20日

開催館	展覧会名	開催期間
浜松科学館	「天竜川・浜名湖地域 小中学生 理科研究作品展」	9月10日～9月19日
	「第27回 天竜川・浜名湖地域小中学生 発明くふうコンクール 作品展」	9月17日～9月25日
ディスカバリーパーク焼津	「ロンドンからくり人形展」	10月8日～12月4日
豊橋市自然史博物館	第20回特別企画展「よみがえれ！愛知のいきものたち」	7月15日～9月11日
トヨタ博物館	企画展「人がクルマに恋した世紀トヨタ博物館の秘蔵展」	3月15日～9月25日
産業技術記念館	「トヨタコレクション展 ーモノづくりの源流ー」	3月12日～9月25日
鳥羽水族館	50周年特別パネル展「鳥羽水族館の50年」	5月15日～12月31日
滋賀県立琵琶湖博物館	企画展示「歩く宝石オサムシ～飛ばない昆虫のふしぎ発見～」	7月16日～11月27日
みなくち子どもの森自然館	特別展「花の不思議」	7月13日～9月25日
大阪市立自然史博物館	特別展「恐竜博2005 恐竜から鳥への進化」	10月8日～11月27日
きしわだ自然資料館	特別展「太古の海の生きものたち～化石の水族館～」	10月18日～12月18日
兵庫県立人と自然の博物館	企画展「コウノトリの野生復帰と自然再生」	7月10日～9月25日
鳥取県立博物館	企画展「鳥取の山岳信仰」	10月7日～11月6日
防府市青少年科学館	「防府市小・中学校科学作品展」	9月28日～10月2日
萩博物館	新・萩市誕生記念特別展「大萩市の文化財」	9月17日～10月16日
	「発掘された城下町～出土品が語る江戸時代の萩～」	10月29日～1月22日
愛媛県立博物館	テーマ展「日本最古の地層」	8月2日～9月25日
	テーマ展「水田の生きもの」	10月1日～11月27日
佐賀県立宇宙科学館	夏の特別企画展「時間旅行」展～時間ってなんだろう！～	7月16日～9月19日
宮崎県総合博物館	特別展「THE 地震展」～宮崎大地震に備える～	8月13日～11月6日

【新規オープン】

釧路市こども遊学館

[主なコーナー (新展示物)]

さんさんひろば……

屋内のものでは国内最大級の「すなば」があり、無料で楽しめるスペース。

あそびらんど……「ネットジャングル」や「キッズテント」

などいろいろな遊びが体験できるコーナー。

ふしぎらんど……「人力プロペラ」や「お絵描き水族館」

など参加体験型コーナー。

プラネタリウム……光学式とデジタル式の二つの投影機を併せ持つ最新式の「ジェミニスターII」で美しい星空の世界、迫力満点の異次元の世界へ皆様をご招待致します。

ものしりらんど……インターネットによる科学情報の収集や科学関連資料、学習用ソフト等の閲覧ができるコーナー。

[展示面積]

1階さんさんひろば(64.9m²)、1階あそびらんど(905.8m²)、3階ふしぎらんど(882.3m²)、3階プラネタリウ



ム(160m²)、4階ものしりらんど(113.5m²)

[オープンの期日] 平成17年7月9日

[準備期間 (基本設計・実施設計・施工期間等)]

平成11年度こども遊学館開設準備室設置から約6年

[担当業者] 実施設計 株式会社アトリエブク

展示施工 株式会社乃村工藝社

[総工費] 4,199,700,000円

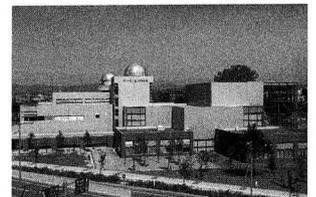
旭川市科学館

[主なコーナー (新展示物)]

北国コーナー……ミックスド・リアリティによるベルグマンの法則の展示、氷河

期と海面変位、雪の結晶、室温がマイナス30℃まで下がる低温実験室など

地球コーナー……大型ロボットを使ったロボットサッカー、地震体験、モーション・キャプチャーを使った人類の進化の体験、大陸移動のシミュレーションなど



宇宙コーナー……月の重力の体験、無重力体験、月の満ち欠けのシミュレーション、宇宙クイズなど
サイエンスシアター……3D映像9本を随時上映
大天文台……口径65cmカセグレン式反射望遠鏡設置
小天文台……口径20cm屈折望遠鏡設置
プラネタリウム……〈規格〉ドーム直径18m、170席（固定席73席、一部回転席64席、2人掛けシート10席、車椅子スペース用移動席23席）

[展示面積]

常設展示室1,315m²
特別展示室187m²
プラネタリウム676m²
実験実習諸室500m²
天文台70m²

[オープンの期日] 平成17年7月23日(土)

[準備期間(基本設計・実施設計・施工期間等)]

基本設計 平成13年度
実施設計 平成14年度
工 事 平成15~17年度

[担当業者]

展示基本・実施設計・施工 株式会社乃村工藝社
プラネタリウム設計・施工
株式会社アクセスインターナショナルリソース
天文台設計・施工 国際航業株式会社

[総工費] 4,895,625,000円(建築設備工事含む、土地・一部外構工事費除く)

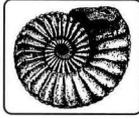
お知らせ

[平成17年度 笹川科学研究助成募集]

対 象：人文科学、社会科学および自然科学（医学を除く）、またはそれらの境界領域に関する研究
募集期間：9月1日(木)から10月14日(金)
問合わせ：(財)日本科学協会 笹川科学助成研究係
TEL：03-6229-5365 FAX：03-6229-5369
E-mail：jss@silver.ocn.ne.jp
URL：http://www.jss.or.jp
※詳細はホームページをご覧ください。

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

since 1974

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

髙東京サイエンス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745
http://www.tokyo-science.co.jp E-mail:info@tokyo-science.co.jp

高品質表現力

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工

kokoro

株式会社 **ココ**

〒205-8556 東京都羽村市神台4丁目9番1号
TEL:042-530-3939 FAX:042-530-4050
http://www.kokoro-dreams.co.jp/



「人が集う空間」という意味を、ノムラはいつもトータルで考えています。

集まる理由を、ノムラは知っています。

集客環境づくりの調査・コンサルティング・企画・デザイン、設計・制作施工ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

NOMURA http://www.nomurakougei.co.jp
株式会社 乃村工藝社 本社：東京都港区芝浦4-6-4 電話03-3455-1171(代)

全科協ニュース編集委員会

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 資料課長

國府田良樹

川口市立科学館サイエンスワールド 学芸係 久保田耕平

千葉県立中央博物館 教育普及課長 森田利仁

国立科学博物館 広報・サービス部 情報・サービス課長 井上透

国立科学博物館 広報・サービス部 広報課専門職員 原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館 広報・サービス部 情報・サービス課 守井典子

Tel.03-5814-9863 Fax.03-5814-9898

発行日 平成17年9月1日

発行 全国科学博物館協議会©

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社